

本会議における 代表質疑・議案質疑

今定例会では延べ45名の議員が質疑を行いました。採決の際、討論を行った議案には「**討論あり**」と表示し、その内容は10ページに掲載しました。

代表質疑

市政方針・教育行政方針について

初雁自由政令会 | 公明党 | 川越志政会 | 日本共産党
政策フォーラム | 川越未来の会

問 学校給食の無償化の実施の時期はどう考えるか伺う。

答 無償化の実施については、令和7年度の2学期を目途に具体的な検討を進めていく。

問 これからの市政運営に必要な財源確保の考えを伺う。

答 事業の見直しと事務の効率化の推進、企業がより活躍できる環境の整備および市の財産を活用した新たな収入の確保の3つの取り組みを中心に進める考えである。

問 市民を守るために重要な防災減災の推進の考えを伺う。

答 これまでのハード・ソフト両面の対策について継続して推進しつつ、避難所での生活環境の改善を進めるとともに、マイタイムラインの普及啓発等を通じて、市民の命を守る防災体制を整備していきたい。

問 市長は、現在の本市の財政状況について、どのように感じているのか？

答 中核市平均と比較して財政力指数や自主財源比率が高く、自主性や自立性のある行財政運営ができている一方で、財政構造の弾力性を表す経常収支比率は高く、硬直化が進んでいると認識している。引き続き行財政改革に取り組み、事務事業の見直しや業務の効率化を図るなどして歳出の抑制を図るとともに、歳入の確保に努める。

問 市長が今後示す肉付け予算において、優先したい施策には何かあるのか？

答 まずは、学校給食費の無償化について、令和7年度の2学期を目途に取り組みたいとの思いである。

問 さまざまな公約を掲げて就任した市長が、4年間の任期中に実施したいと考える施策を伺う。

答 公約は子育て・教育や行財政改革など市政の各分野にわたり、制度設計や財源等の検討が必要である。市民や現場の声を大切にし、より多くの公約が実現できるよう優先順位を付け、実施の方法や時期等の検討を進めたい。

問 学校給食の無償化は2学期を目途に進めるとのことだが、庁内で必要なプロセスを経たのか伺う。

答 現時点においては、2学期を目指して担当の部署に検討の指示をしている段階である。

問 全小中学校のトイレ改修工事の完了見込み時期を伺う。

答 完了する時期としては、令和10年度を見込んでいる。

問 物価高騰に苦しむ市民・事業者はどう対応するのか。

答 生活必需品の価格高騰は、市民生活に大きな影響を及ぼすため、まずは出費の多い子育て世帯など物価高騰の影響を受ける人に対する支援を検討する。

問 こどもの貧困対策はさらに充実した取り組みになるか。

答 現在取り組んでいることも食堂の運営団体への支援とともに、ひとり親家庭への養育費の確保に向けた制度の検討を進めていく。

問 市長は、平和首長会議に参加し、日本政府に核兵器禁止条約への批准を求める立場か伺う。

答 平和首長会議国内加盟都市会議が核兵器禁止条約の批准について日本政府に対して要請しており、加盟都市の一員として、その趣旨に賛同する立場である。

問 公約である「川越が動く」の5つの柱立ての中で、市長の独自の施策はどのようなものがあるのか。

答 公約における独自施策としては、「子育てが動く」でひとり親家庭の養育費確保に向けた制度、「教育が動く」で学校給食費無償化等、「経済・財政が動く」でトップセールスでの新規企業立地等、「くらしが動く」で高齢の運転免許返納者等への補助制度、「市民の安全・安心へ動く」で避難所の環境整備などを考えている。

問 市立小中学校の適正規模・適正配置とは。

答 適正規模は、全学年でクラス替えが可能で、一定規模の教員定数を確保できる学級数を目安と考えている。適正配置は、通学距離が小学校で4 km以内、中学校で6 km以内、または通学時間が1時間以内を目安と考えている。

問 「教育が動く」の個性に応じた教育体制について、不登校の未然防止にどのように取り組むのか。

答 不登校の未然防止のための取り組みについて、全ての児童生徒の個性を尊重し、安心して通える学校づくりに努めていく。学校を安心できる場所にするための居場所づくりとして、支援員を配置するなどして校内学習室の充実を図っていく。

問 「くらしが動く」のスポーツ環境整備について、どのように進めていくのか。

答 スポーツを推進していくためには、市の予算だけではなく、民間との連携や支援が必要である。そのためにも、民間活力の導入を検討しながら、今後も市民がスポーツを楽しめる機会が増えるような取り組みを進めていく。